



発行所 〒157-0073 東京都世田谷区站6-26-21 特定非営利活動法人 障害者団体定期刊行物協会 定価 100円(会費を含む) 1998年10月9日第三郵便物認可(毎月3回8の日発行)2015年1月24日発行 SSKU 増刊通巻、第5034号

潮騒通信 潮騒ジョブトレーニングセンター
Drugs and Alcohol Addiction Rehabilitation Center

どっこい生きてます!



今年も正月3日に近くの鹿島神宮に初詣でに行き、入寮者の皆さんが自分たちの病気の克服に向けて決意を新たにしました。潮騒にとって今年は、栗原豊センター長が困難な状況下で独立の歩みをスタートして10年目の節目です。施設を挙げていっつか記念事業を計画していますが、入寮者にとって潮騒での基本は「今日一日」の地道な回復活動の継続であり、日々のミーティングです。その原則を踏まえながら独立10年目の意義をみんなで共有し合い、明日への希望へとつなげていきます。

2015
1

独立10年目の今年を 施設建設構想の ひと区切りに...



潮騒JTC支援者の皆さま、遅ればせながら明けましておめでとうございます。今年は、私が独立の歩みを始めて10年の節目です。不思議な運命に導かれるように60歳でダルクにつながった私でしたが、クリーン3年を待たずに世話になったダルクから離れる決心をせざるを得ない状況に追い込まれました。「この先、自分が回復するためにはどうしたらいいのだろうか?」と思い悩んだ挙句、「やはり他人を変えるのではなく自分が変わるしかない」「そのためには自分の思い描くダルクをつくらう」と決意し、無謀にも志を同じくする7人の仲間たちと新たな施設を立ち上げました。しかし独立の経緯が尾を引き、数年間はとても苦しい孤立を経験しました。お金も頼れる人もプログラムもない中で、その日暮らしの綱渡り生活に耐えられたのは「自分たちには失うものは何もない」「ハイヤーパワーは決して私たちを見捨てない」という信仰にも似た確信でした。

あれから10年…、誰が今日の潮騒JTCの姿をイメージできたでしょうか。着実に関連施設を増やしてダルク一の施設規模となり、就労支援活動では他に誇れる先進的な取り組みをするまでに成長しました。そうした感慨を踏まえ、今年はひと区切りとしてまとめの作業を進行させます。皆様には断片的に自前の地域完結型の施設ビジョンとして「アディクション・ビレッジしおさい(潮騒依存症村)」構想を提案していますが、これに沿って鹿嶋地域から鹿行地域全体を視野に入れた回復施設の在り方を模索します。具体的なプランは本通信などで随時示していきますが、障害者総合支援法の就労支援継続B型サービス事業の拡充と高齢者の介護事業への参入を手掛けます。特に高齢者問題は潮騒にとっては「待ったなし」の課題でもあり、認知症や複合的な障害を併発するプログラムに乗れない高齢依存症者へのケア(老人ホーム機能のデイケア活動)を試行的に開始します。ダルクには手に余る「出口」課題のうちでも、困難な「終の棲家づくり」につながる活動です。老後をいかに充実したものにしていくかは依存症の世界でも無視できない現実的な課題であり、これに真正面から取り組みます。

もちろん、これまで以上に通常の回復支援活動には力を入れます。潮騒に定着してきたRD(リカバリー・ダイナミクス)プログラム講座に加え、全国に普及しつつある薬物依存症治療のプログラム「スマーブ」(認知行動療法や動機づけ面接法などを取り入れた集団治療プログラム)を採用する計画です。また、入寮者向けに個別支援計画とカウンセリングも充実させます。懸案のスタッフの多忙化対策や新たなスタッフの育成、責任者として各担当の専任化にも着手します。幾多の試練を乗り越え、私が今日まで施設運営を続けられたのは正に「奇跡」というほかありません。「最近のユタカはマネージメントに偏りすぎではないか」との有難い助言に耳を傾けながらも、私は自分のスタイルで今年1年も「人生諦めなければ必ず生まれ変わる」ことを実証していきます。(センター長 栗原豊)

潮騒ファイザープロジェクト 就労支援実践講座

海外の就労支援事情を 映像で詳しく紹介

依存症者の福祉的ケアの在り方でも貴重な提言

ダルク・マック支援者で
東海大教員の宮永氏が講演



▲東海大教員の宮永氏

潮騒ファイザープロジェクトで取り組む就労支援実践講座の最終講演(第7回)が昨年12月26日、鹿嶋市まちづくり市民センターで開かれ、福祉政策的な側面から本プロジェクトを理論的に下支えしてくれた東海大学健康科学部准教授の宮永耕氏が「依存症者の自立と就労支援」をテーマに話してくれました。プロジェクトを締めくくる内容の濃い講演で、潮騒JTCの今後の就労支援活動の方向性について多くのヒントを頂きました。宮永氏は2012年の潮騒7周年フォーラムでも「生活保護と自立」について講演してくれたほか、昨年暮れの9周年フォーラムでも同様のテーマで講演してくれています。

◇ ◇ ◇

宮永氏は現在、東海大学で教鞭をとる傍ら、横浜マック理事長も務めています。社会福祉学(社会福祉援助論・公的扶助論)が専門で、かつて横浜市役所でケースワーカー等を経験し、ダルクやマックを長く支援しています。大学教員にありがちな書齋派ではなく、現場の実践で鍛えられた守備範囲の広い研究・教育者です。潮騒9周年フォーラム講演では、ダルクや潮騒などで安全安心に回復活動に励むために不可欠な支援制度である生活保護の重要性を指摘し、「日本国憲法の国民の権利、生存権に従い国民誰もが人として生活していく際のセイフティネットとして生活保護は存在している」との根本的な確認をしてくださいました。

◇ ◇ ◇

この日は暮れのフォーラム講演を補強し、海外の施設映像や資料データを用いて「依存症者の自立と就労支援」について話しました。生保問題ではメディアで「生保

パッシング”の嵐が吹き荒れ、生保受給が何か悪い事でもあるかのように一方的に世間の風当たりが強くなっていく状況に対し、「統計で明らかなように受給者が増えているのは高齢者層、若い世代ではない」として、高齢者の生活が立ち行かなくなっているこの国の福祉政策の在り方を問題視しました。その一方で、依存症ケアの先進地である欧米の治療共同体などを数多く視察研修してきた経験から、海外の就労支援事情を紹介。米国のキャリアアカデミー(民間の職業訓練校)のように社会復帰をにらんでキャリアスクール機能を充実させることや、多様な職業訓練メニューを用意することによって、中間的な就労や段階的なジョブトレーニングのスタイルを示し、調理や木工、工芸、大工、ビルメンテナンス、水道工事、コンピューター、自動車修理、レストラン経営など具体的な分野への取り組みを参考事例として提案してくれました。

◇ ◇ ◇

潮騒JTCの就労支援の方向性については、「潮騒にはどこも真似できないマンパワーがあるし、自分たちで物件を改修して食堂をオープンしたように、多様な職人経験や技能を持つ人たちが集まっている。この人たちの経験をもっと生かせないか。飲食業だけでなく、引っ越しや中古品のリサイクル、自前で建物修理をする修繕や簡易リフォームなどマンパワーが必要な分野の仕事を充実させれば、将来の就労に向けて可能性が広がるのではないか」とのビジョンを示してくれました。宮永氏が紹介した米国の回復施設は科学的で合理的な側面が伺え、潮騒とは異なる面が多いものの、大いに参考になる内容を含んでいました。宮永氏には講演終了後に駆け足でしたが、潮騒農場や潮騒水田を視察してもらいました。

ファイザー事業で干しイモづくりに挑戦



▲ 茹で上がったサツマイモをスライサーで薄く切る農業隊メンバーのユウさん(左)とリョフさん＝鹿嶋市平井の農業隊シェアハウス作業

冬場農閑期の最適な加工作業プログラムに
 農業を主体にした潮騒独自の就労支援プログラム開発を目的とした、潮騒ファイザープロジェクトの締め括りとなる干しイモ(地元では「乾燥イモ」)づくりの第1弾目となる加工作業が酷暑の下で年末から正月初めにかけて行われ、初めてのチャレンジにしてはまずまずの出来となりました。試食した支援農家からは潮騒で作った干しイモに「サツマイモが持つ栄養と甘みが凝縮され、自然な味わいがよく出ている」と一定の評価を頂きました。

**農業の6次産業化をにらみ
 ノウハウを習得**
 潮騒ファイザー事業完結の今年3年目の取り組みでは、これまで荒地開墾などで自力形成した耕作地(潮騒農場)を有効利用し、地域に適した農作物づくりを行うという生産基盤の充実だけでなく、就労支援の枠を広げて流通や商業販売にも意欲的にアプローチしようと、加工と販売(地元JA直売所での試みは既に実施)までを一貫して手掛け、次につなげる農業の6次産業化をにら

だノウハウを身につけようと活動の幅を広げました。農場直営の定食屋経営と販売所設置に続き、農業プロジェクト最後の作業が今回の干しイモづくりです。
 干しイモはサツマイモに熱を加え(蒸して)、薄目にスライスして天日乾燥させた、文字通り無添加の自然食品です。コレステロールがゼロで食物繊維も多く、ビタミンやミネラル分をバランスよく含み、タンパク質や脂肪分が少ないので太りにくく、何ととっても自然に即した独特の甘みから健康自然食として女性には特に人気です。潮騒でも「サツマイモを作るならぜひ干しイモづくりも」との声が農業隊メンバーから上がり、前年秋には干しイモづくりのプロ農家の指導や助言を得てきました。

**農業隊シェアハウスで
 干しイモづくり第1弾に着手**
 よく知られたように茨城県は干しイモ生産量・出荷額ともに日本で、全国シェアの90%以上を占めています。中心地は水戸市に隣接するひたちなか市周辺で、サツマイモ栽培に適した土壌と寒冷な気候、特に冬場に吹く海からの冷たい風が甘さを一段と強くします。同じ太平洋

の鹿島灘に面した鹿嶋市も、同じように気候条件に恵まれています。潮騒では今回、青塚農場の畑に干しイモに適した「紅はるか」という品種のサツマイモを約20アール栽培し、夏場の除草作業など苦労を経て昨年秋には1ケース約20キロの農産物コンテナで100ケース以上を収穫しました。
 そうして厳寒期を待って、このほど平井地区にある農業隊のシェアハウス作業場で第1弾の干しイモづくりに挑戦しました。その工程は、①サイズ別に選別する②自作のドラム缶釜で約2時間煮る③熱いうちに皮をむく④スライサーで薄く切る⑤4日間天日干しを繰り返す一で、約1週間で完成させました。このために隣接する畑には衛生管理に気を配って専用のビニールハウスを建て、専用の干し台をつくり、ここを天日干し場としました。また、これらの作業に先立ち、収穫したサツマイモを適温で土中保存するために、開墾畑の猿田農場に重機を使って自分たちで専用の貯蔵庫(深さ3mほど、室温13度を保つ補強した土穴)を掘りましたが、まだ完成していません。他の仕事との兼ね合いもあるので2月中には完成させたいと試行錯誤しています。このため収穫した残りのサツマイモは常温保存倉庫を借りて保存しています。

**保健所の許可が取れ次第
 販売ルートを拡大**
 農業隊メンバーは一連のノウハウを習得したことに加え、「茨城名産の干しイモを自分たちで作上げた」という達成感と自信、さらには若い世代から年配者メンバーまでが一緒になって取り組んだことで、より連帯感を強くしました。今のところは潮騒食堂「おらげのかまど」や各種祭りイベントでの限られた販売ですが、保健所の許可が取れ次第、直売所などにも販売ルートを拡大する予定です。1月半ばの鹿島神宮前の朝市では用意した20袋が完売したほか、食した支援者からは20袋もの注文も頂きました。今後約1カ月間かけて、貯蔵したサツマイモを使い干しイモづくりに励みます。今回あちこちから好評価を得たことで、潮騒農業にとって干しイモづくりは主力の農産物加工品として商品化に弾みがつきそうです。厳冬のこの時期は農作業が休みとなるので、農業隊にはこれを補うちょうどいい作業となり、新たな可能性を切り開きそうです。



サツマイモを自家製のドラム缶釜で茹でるために使うマキ割り作業



釜で茹で上がったばかりの熱いサツマイモの皮を丁寧にむいていく



スライスしたサツマイモをビニールハウス内の天日干し台に並べる



スライスのサツマイモは約1週間天日干しを繰り返して干しイモに

今月のイベント参加報告

こんなイベントに
参加しました、
というご報告。

年末恒例の餅つきイベント開く 手つきと餅つき機で180キロをこなす

鹿嶋市宮津台の潮騒 JTC 本部施設の駐車場で昨年12月28日、年の瀬の恒例行事「潮騒餅つきイベント」が行われました。ここ数年、潮騒では施設で自家消費する正月用だけでなく協力関係にあるダルク施設や支援者の皆さん方にも配るために、約1日半かけて約3俵(180kg)の餅をついています。今回は初日に120キロのもち米が用意され、手つきと電動餅つき機を併用して負担軽減を図りました。手つきでは、もち米が蒸しあがると、もち米を臼の中に入れて、杵である程度つぶしてから餅つきを開始。腕に自信のある餅つき経験者が、「初めて餅つきをする」入寮者に餅つきのコツや餅のひっくり返し方などを教えていました。つき上がったお餅は、女性施設のメンバーらの手によって餅取り粉がまぶされ、次々にのし餅にしたり、お供え用の鏡餅に仕上げられました。

つきたての柔らかい餅は、さっそく関東風お雑煮やあんこ、きな粉、大根おろし、茨城ならではの納豆で味付けされ、昼食として潮騒の入寮者に配られました。仲間たちは雑煮や様々な味の餅に舌鼓を打ち、一足早いお正月気分を味わっていました。ただ、初日はもち米の一部が古かったせいか粘りが今一つで、翌日に1俵分(60kg)を改めてつき直す作業を強いられました。こうして例年どおり、もち米180キロが全部餅になりました。

入寮者の皆さんは「毎回、施設の餅つきが楽しみ。家族の元に帰郷や帰省ができなくても、これで何とかお正月が迎えられます」と話していました。



臼と杵による手つきの餅つきは機械を使うよりおいしいと評判



「帰省できなくても、これで正月が迎えられる」と口をそろえる仲間たち

たかおざきデイサービスで正月早々エイサー慰問

皆様、新年明けましておめでとうございます。チョンダラこと施設スタッフのひとしです。今年も1月6日に、新年一発目の琉球太鼓(エイサー)演舞を鹿嶋市平井の高齢者介護福祉施設「在宅ケアセンターライフ in たかおざきデイサービスセンター」で実施させて頂きました。たかおざきデイサービスの皆様ありがとうございました。新年早々感謝、感謝です。たかおざきデイサービスさんでは今回で3回目のエイサー演舞となりましたが、毎回顔ぶれが違う、おじいさんやおばあさんの前で太鼓を叩けて嬉しい限りです。これに懲りずに4、5、6、7、8、9、10回…と、今後も我々潮騒エイサー隊を呼んで下さい。

毎回仲間と話しているのですが、施設慰問をさせて

頂く度に利用者のお年寄りの皆さんから「元気を!」、「笑顔を!」、そして「感動を!」を頂いていることに感謝です。毎回、感謝の気持ちを抱いて、日頃の成果を発表させて頂いているつもりです。皆さんから元気、笑顔、感謝を頂けるのですから、我々もエイサー慰問活動をやめられないですね。私も、太鼓はもちろんですが、芸のほうも上達出来るよう練習に励みます(笑)。それでは皆様4回目の演舞の時に逢いましょう。また逢える日を楽しみにしています。今回は声を掛けていただきありがとうございました。(チョンダラ・ひとし)

※チョンダラとは沖縄エイサーで道化役として登場する、顔を白塗りにして登場するひょうきんな存在のこと。滑稽な動きでエイサーを盛り上げる。

JA直売所6周年感謝祭に参加 駐車場への車両誘導にも尽力

潮騒 JTC が農場で生産した野菜を納めている JA しおさい鹿嶋農産物直売所(鹿嶋市神向寺)の「6周年感謝祭」が昨年12月下旬、カシマスタジアム隣の直売所駐車場で開かれ、今年も潮騒はエイサー(琉球太鼓)演舞などで祭りの盛り上げに一役買いました。天候は今一つでしたが、雑煮の無料配布や餅入り汁粉、ニンジン詰め放題100円、地場野菜やコシヒカリが当たるお楽しみ抽選会、さらには鹿島タコや鹿島灘ハマグリなど海産物も販売され、家族連れなどが訪れました。

潮騒はポップコーンを100円で販売したほか、すっかり定着したエイサーで感謝祭の雰囲気を取り上げ、来場車の駐車場への誘導係を担いました。交通誘導は目立たない活動ですが、車両交通量の多い国道51号沿いにあるだけに直売所関係者の信頼を得ていました。鹿嶋市は地の利を生かした農業が盛んです。ピーマンや落花生、サツマイモや新鮮野菜など同直売所には年間を通して地場の新鮮野菜などが揃っています。



100円ポップコーン販売に動んだ潮騒農業自然隊メンバーのカツミさん

太鼓の初打ち披露で最高に有意義な元旦に

アディクトのイチです。僕は去年の夏頃より潮騒 JTC の「潮騒連中」として和太鼓に取り組みました。潮騒の仲間とともに地元で鹿島灘太鼓を主宰する島田先生夫妻からご指導を頂き、去年秋からの神栖市芸術祭、て〜ら祭、潮騒第9回フォーラムで和太鼓を披露させて頂く予定だったのです。でも、不運な事に神栖市芸術祭の翌日に腰が痛くなり、整形外科で診て貰うと椎間板ヘルニアとの診断でした。思わぬトラブルで急遽、しばらくの間休養する事になってしまいました。でも、自分はどうしても諦め切れなくて、毎週の太鼓練習にはなるべく顔を出していたのです。

そんな中、暮れの年末太鼓練習の時に島田先生から「来年1月1日に神栖市の伝統ある息栖神社で太鼓の初打ちを披露するので、潮騒の皆さんも出来たらやりましょう」と誘いを受けました。僕は持病の件から参加すべきか迷いながらも年が明け、内心ではドキドキしていました。「元日から太鼓をやるのか…」と聞いていたからです。でも、そんな事は余計な心配でした。当日、僕は潮騒 JTC で一緒に生活し太鼓を頑張っている

仲間と共に息栖神社に到着。さすがに正月とあって肌を刺すように冷たい寒さだけけれど、その空気の美味しい事にビックリ。つい昔の自分と比べてしまい、「こんなに有意義な元旦は何年ぶりかな…」などと前向きな考えと感謝の気持ちになりました。

そうして初打ち本番となり、会場の息栖神社で灘太鼓の方々から衣装を着せて貰い、参拝客の列の中で和太鼓の演舞をしたのです。途中、みんなで「雀踊り」をやる事になっていたのですが、僕は鉦(かね)のパートが出来なかったのが、灘太鼓の方に鉦をやって貰い、僕は自分が今まで練習してきた曲の鉦だけを一生懸命やりました。役不足だったかもしれませんが、それでも僕も仲間たちも「正月からこんな風に世間に貢献出来たのは久しぶりだね」と口をそろえました。

帰りには灘太鼓の皆さんと一緒に打ち上げもやり、最高に有意義な元旦でした。僕も仲間たちも「この熱い思いを忘れないで、回復に向けてのプログラムに打ち込もう!!」と決意を新たにしました。毎年この調子で和太鼓を続けていきたいです。(イチ)

こんなイベントに
参加しました、
というご報告。

病に倒れたチョーさんがサプライズで参加

潮騒JTCの年末恒例イベントとして定着している「潮騒クリスマス会」がイブの12月24日、鹿嶋市宮中のデイケア施設で行われました。今年は会場確保の都合で暮れの慌ただしい開催だった潮騒9周年フォーラムなど、例年になく忙しい年末の動きの中で一気になだれ込むように同日の施設恒例イベントにたどり着きました。

潮騒のクリスマス会は、各種の趣向を凝らした出し物やアイデアあふれる企画が人気を集め、毎回入寮者が楽しみにしている施設イベントの一つです。しかし、今年は準備にあまり時間が取れなかったのですが、いつものカラオケ大会では芸がないので、入寮者ダンスやショートコント、わさび入りシュークリーム食べ、それにサプライズではハンディカムで撮ったホームムービーで入寮者の生活や表情をとらえ、その映像を30分程度スクリーンで上映しました。これがみんなに受け、とりわけ仕事隊のことがよく分かったと好評でした。女性陣もジングルベルや密かに練習したとみられるユニークな踊りを披露しました。また、この日で施設を退寮する「あやめちゃんのお別れ会」を兼ねた、思い出に残るクリスマスイベントになったようです。もちろん例によってチキンや寿司弁当を食べながらクリスマス気分を味わい、カラオケでは得意の持ち歌で自慢のど

を披露する入寮者たちが主役を担いました。

そんな中で嬉しかったのはチョーさんがサプライズ参加してくれたことでした。社会経験豊富な年配の施設スタッフとして仲間たちからとても信頼の厚かったチョーさんでしたが、還暦を過ぎて予期せぬ病に倒れ、鹿嶋市内の病院で闘病・リハビリ生活を続けています。重い後遺症にもかかわらず、仲間の前に姿を見せてくれたことに頭が下がり、忘れられない一日となりました。

この日は朝一番からボーリング、午後は昼食を皆さんでカラオケなどで盛り上がり、夜は「NAはまなす」のバースデーミーティングと忙しい日程でした。徐々に作業隊の参加もありました。来年のクリスマス会はカラオケでもっと盛り上がりたなら、と思っています。(トム)



クリスマス会には病に倒れたチョーさんも参加し、仲間たちを喜ばせました

2回目のスノープログラムに行ってきました

気のおけない仲間たち6人と1月13日から15日までの3日間、スノープログラムに行ってきました。昨年に続き2回目の取り組みです。気が付けば1年がとて早く感じられます。前回は福島県(猪苗代湖スキー場)でしたが、今年は新潟県(上越国際スキー場)でした。広大なゲレンデが人気のスキー場だけに雪質も良く、滑りやすかったです。みんな年末がとても忙しかった分、自分たちへの「ご褒美」感覚で、与えられた2泊3日の貴重な時間を満喫しました。

プログラムとはいっても施設全体の取り組みではなく、スキーやスノーボードを愛好する仲間有志を募って、お金を貯めて自分たちで場所の選定や旅程を立てる自主的なプログラムです。雪と戯れスノースポーツを目いっぱい楽しもうという趣旨ですので、あまり回復と

かの意識はないのですが、好きな事とはいえ意外と自立性や計画性などが問われたりして、結果的には回復面ではプラスに作用していると思います。来年はもっと多くの仲間たちと行けるようにしたいです。(ヒトシ)



入寮者の自主イベントとして取り組まれているスノープログラムに参加した6人の仲間たち

受刑者からの手紙

孤独な忍従生活を送るだけに、受刑者の皆さんにとって外部とのコミュニケーション欲求は計り知れないものがあります。本欄担当は一人ひとりの手紙を丹念に読み込んでいますが、時には事務的なミスも発生します。期待が大きい分だけ裏切られた感情が肥大化しがちなのでしょうか、もう一度原点から「依存症の回復とは何か」の問いかけを忘れないでほしいと思います。

今回は家族の応援を得て地元で更生を目指します

お手紙ありがとうございます。私は既に薬物をやめる決心をしています。地元で薬物離脱センターがありますので、そちらに通いたいと思います。いろいろ考えた末での決断です。家族や周囲の皆様も離脱に向けて協力を惜しまないと言ってくださいます。栗原さんも以前に潮騒通信の中で、依存症の克服には家族と一緒に勉強していくことが大事と書いていましたが、その通りだと思います。また、「薬物依存症は家族のために辞められるような単純な病気ではない。問われるのは自分自身の生き方なので、人のためではなく自分のため」というのが原点です」というのも、その通りだと思います。

ですので、まずは自分がどう回復していくのか、どう生きていくのか、を悩みながら真剣に考え、実際に地域社会の中で実践していきます。そのためには、家族が背後で立ち直りを辛抱強く見守ってくださるスタンスが大事です。ですので、私としては今回、潮騒(施設)ではなく、長く親しんでいる地元地域で家族の応援を得て更生にトライしていく方向でやっていこうと考えています。もちろん家族に甘えるのではなく、厳しく見守ってもらうようにします。こんな私のためにお手紙を頂いたことに感謝します。施設にはお世話になることはできませんが、何かのおりには相談ののってもらえればとお願いします。

(東京都 O・K)

潮騒でなら今度こそ薬物をやめていけるのでは…

以前にM刑務所に潮騒通信を届けてもらった者です。昨年11月に仮釈1カ月をもらい、出所したのですが、1カ月もしないうちにまた薬物で捕まり、今は当地で服役しています。この前「7回目の刑務所入所の果てに」を読みました。ロバさんでしたっけ、姪御さんの助けにはすごく感動しました。それから脱法ハーブ(危険ドラッグ)関連で栗原さんがTVに出ているのを見ました。本当にクスリというものは魔物ですね。自分は刑務所5回目、薬物での懲役は3回目ですが、本当に今回を最後の懲役にしたいです。自分はもう母が70歳で弟が障害を持っているのでDARCとかで暮らすことは難しく、行けないと思うのですが、いろいろ我慢するためにはどうすれば一番いいのか、教えてもらいたいことがたくさんあります。出所してから見学とか相談に、一度お訪ねしてもいいでしょうか。あとできれば潮騒通信を読みたいので善処方を宜しくお願いします。

しかし、なぜですかね。このような所にいる時はクスリなどまったくやりたいとは思わないのに、社会に出るとやりたくなくてすぐに使ってしまう。自分の意志ではやめられないのですから、覚醒剤は本当に魔物です。今度こそ最後の懲役にしたいので、どうかご指導、ご支援のほど宜しくお願いします。因みに今回はフォークリフトの免許を取らせてもらいました。今後も何か役に立つような事があたら応募しようと考えています。

(新潟県 O・Y)

3類になり集会で飲み物とお菓子を食べた

昨年は1年間いろいろとご指導を頂きありがとうございます。これから、まだ少し期間がありますが、一日一日を考えて事故や違反のないように生活していくつもりです。当地はよく雪が降りますが、暖房が入るのであまり寒くはないのですが、工場の行き帰りは寒く感じます。でも風邪も引かず体調も良好です。今は3類になり、先日初めて集会に行き飲み物とお菓子を食べました。今は仕事も面白くなっています。このまま頑張っていきます。栗原様もスタッフの皆様も健康に留意して今年1年頑張ってください。

(北海道 Y・T)

いろんな人に支えられ懲役を務めていると実感

今年も残すところ数日、皆様多忙の中で大変だと思えます。インフルエンザには気をつけてください。9周年フォーラムも成功されたようで、なによりです。12月に入り、こちらでも雪が舞い寒い日が続きました。思った以上に当地は寒いです。そんな中で刑務所内ではいろいろな行事や慰問があり、楽しませていただきました。改めていろんな人に支えられて懲役を務めていることを実感しています。これを頭において残刑を真面目に務めます。早いものでこれが今年(平成26年)最後の手紙です。来年に向けて、施設の方では節目の10周年関連の行事があるようで、忙しく慌ただしい時間が続くと思います。どうか皆様、お体には気をつけてください。今年1年間、潮騒通信等を送って頂き、ありがとうございました。※手紙には素敵なサンタクロースのイラストが描かれていました。

(愛知県 S・S)

近藤恒夫氏インタビュー

「ダルクと就労支援について」

短期連載

Vol.1

ダルクの仕事は就労支援ではなく本人の回復支援



依存症者の就労支援プロジェクトとして取り組む潮騒農業

●山梨ダルク創設と農園手伝いのアルバイト

—ダルクを始めた当初、近藤さんの中には就労支援というイメージはなかったと思うんですね。でも、近藤さんの本に面白いエピソードが書かれています。設立間もない時期に、ある覚醒剤依存の入寮者が東京ダルク近くの八百屋でアルバイトして、稼いだお金を黙って献金してくれたという話がありましたよね。

近藤 あの場合本人が自分でアルバイト先を見つけてきたんだ。基本的にダルクが入寮者の就労を世話することはしなかった。なぜならダルクが仕事の世話をしたりすると、病気(依存症)を再発させてしまった時に、本人たちは自分がスリップしたことを棚に上げて、「ダルクが仕事に行けというから行ったのに、賃金は安いし、仕事はきつかった。だから失敗したんだ」というふうな、必ず言い訳に使われる。それが僕には嫌だった。だから仕事をしなかったら、自分の足でハローワークにでも行って見つけて来なさい、と。ダルクのコネクションを使って仕事の紹介もしなかったし、僕が入寮者に就労を求めたりはしなかった。それがダルクの一貫したスタンスだった。つまり失敗した時の言い訳に使われるから、一切就労についての支援はしなかった。

—就労問題については、そういう流れでできた訳ですね。でも以前、近藤さんが山梨ダルクをつくる時に、就労支援の意味合いを持たせたダルクにしようという構想があったと聞いていますが、そうではなかったんですか。あれは、どういう経緯だったんですか。

近藤 こういうことなんだよ。平成20年にダルクを山梨

県の甲府につくったんだけど、知っての通り山梨は小さな県だけに、ああいう狭い地域では地元の支援なくしては恐らくダルクは生き延びられないだろうなあ、という思いがあったんだ。あそこはブドウなどの果樹栽培が盛んな土地柄なんだが、やはり果樹農園も全国の農家と同じように高齢化問題に直面していた。それで若い人たちの手助けが必要となっていたという背景がある。でも他の農業のように1年じゅうじゃなく、果樹農家はあある一定時期にマンパワーが必要なんだ。じゃあ、その時期に限定してダルクが農園の手助けをすればいいんじゃないかと。そう考えた。恒久的な就労とかではなく、あくまで短期のアルバイトだよ。だからダルクで農園を経営するという大それた話ではなかった。

—今もそういう形で山梨ダルクではやっているんですか？

近藤 やっているんじゃないか、何人かで作業に行っているはず。冬場は仕事がないから、人手が欲しい収穫時期に主に働きに出ているんじゃないか。確か、地元のキリスト教会かなんかが牧場を持っていて、その作業も手伝う計画があったと思う。だから就労支援という体系的な取り組みではなく、ニーズがあれば農園の手伝いに人を出して、という形でね、それは就労支援とは意味合いが違うよね。あくまで地域貢献、地域が求めるニーズに応えるというボランティア作業だよ。

●ダルクの人たちは世間のオファーを断りきれない

—でも、どうなんですか、以前にお話しをうかがった時に「ダルクの役割は就労支援ではなく、あくまで本人の回復支援にある。これがダルクの仕事といえば仕事であり、

本来の任務だ」と力説されて、近藤さんはダルクがハローワークみたいな役割を背負われる動きに対して異議を唱えられていた。各地にダルクができたのはいいとして、ダルクの原点を押さえてほしいという近藤さんの気持ちを感じたんですけども、その考え方は今も変わらないですか？

近藤 ダルクの人たちは、世間のいろんなオファーを断りきれないんだよ。人がいいから。断るのが下手で、実際できない。ずっと社会から相手にされないで生きてきたから、どんなんでも声が掛かるとうれしくて舞い上がっちゃう。余計に敏感に反応してしまうんだろうね。それで外面をよくしようとして、つい無理をする。就労なんてできる段階じゃないのに、実績をつくらうと、つい無理しちゃう。その結果、どんどん背負っている荷物が重くなってしまい、自分で自分の首を絞めるようになっていく。だけど僕たちは、世間に認められようとして自分たちの力量以上に無理をすると、それこそ元も子もない。病気を再発しかねない。それが依存症の正体だし怖さだからさ。ダルクは余計な事に出さず、なるべくシンプルに基本の活動だけで運営した方がいいと僕は考えている。

●ダルクはあまり就労とかを考えない方がいい

—でもダルクが全国化するなかで、本来任務のリハビリ活動に加えて様々な、ある意味で余計な仕事や役割を負わされるようになったのも事実です。薬物乱用防止の学校講演、刑務所や病院へのメッセージ、地域のボランティア活動、今ではダルクの看板の一つになっている太鼓演奏なんかでも各地のイベントに引っ張りだされる。社会の信用

を得るには不可避だったかもしれませんが、そっちの方の比重が重くなっている現実もある。これも一概には無視できない状況になっているじゃないですか。そして今や就労支援もダルクの重要な課題の一つになった…。

近藤 うーん、どうなんだろうな。ダルクはあまり就労とかを考えない方がいいんじゃないか。つまり真剣に考えない方がいいと僕は思う。ある程度本人がダルクで回復して、仕事をしたいと考えるようになったら(それはいいことだ!)、それこそ自力で仕事を探すことに意味がある。それが社会力というか、社会で生きていくということの意味だからね。仕事の職種にしても、僕自身はもともと出身が水商売だから、そういうのをやるのはいいんだけど、ダルクでも喫茶店ぐらいいいのか、とは思。ただレストランになると難しいだろうな。

それから会計の問題もある。金を持ったら、それこそ股旅みたいな人たちばかりだからね、ダルクの人たちは。「猫にマタタビ、ヤク中にお金」だよ(笑)。お金を持ち逃げするのはいいけど、お金は病気を誘発(再発)させるからね。店の金庫やレジに何万円かあると、ヤク中は股旅に出る可能性がある。やはり3年ぐらいクリーン期間がないと、腰を据えて仕事するのは難しいと思うよ。そうね、現金を扱わない仕事ならいいかもしれないけど、日銭が入る仕事だと危険だよな、ヤク中には。(次号に続く)

◇ ◇ ◇

※日本ダルク代表の近藤恒夫さんに「ダルクと就労支援について」インタビュー取材しました。短期連載します。

しおさい俳壇

1月のお題 **初日**

選者 **桐本石見**

わが俳句人生の歩み・No.15

センター長 **栗原豊**

私には潮騒の施設運営が軌道に乗ってきたら、いくつかやりたいことがあった。一つは自分たちの活動を支援者の皆さんに広く報告し、情報を発信するニュースレターを定期発行すること。献金に頼りたくないダルクの多くは、支援者に向けての「ヘルプメッセージ」を込めて、あるいは入寮者の家族に施設での生活状況を発信するために、多くが手作りのニュースレターを発行している。それもいいが、私は“献金頼り”の施設運営体質を変えたかった(というより私は設立時からハンディを負っていたので献金に頼れなかった)ので、きちんと読まれて(ということは読まれる工夫をして)評価される内容のものを作りたかったし、とにかく自分の考えや意見を随時披歴できる「発言の場」も確保したかった。それに自分が最も得意とする表現分野である俳句作品も、仲間たちの分と合わせて随時掲載したかった。おかげさまで、これらは何とか形にできている。

◇◇◇

やりたいことのもう一つは、苦労は多いとしても何とか毎年、自力で公開フォーラムを開くこと。これも、逆境に耐えて踏ん張ってきた私を見かねたハイパーパワーのご褒美なのか、信頼のできる力強い協力者たちを得て既に実現できている。やはり餅は餅屋というべきか、そうした人たちが「助っ人」に入ってくれたおかげで、潮騒は急速に信頼を高め、また体力もついて多方面で自分がやりたかった施設運営ができています。これにより、私が念願とする潮騒依存症村構想(アディクションビレッジしおさい)に向けて、着実に地歩を固めていると自負している。あともう一つ、やりたいことは自分の回復の歩みを本にすることだが、これは独立して10周年の今年ぜひ実現したいと考えている。

その本の中には私の歩みを象徴する過去の俳句作品を盛り込められたらとも考えているが、刑務所時代のものは何も残っていない。社会復帰してからの作品は手元にあるので掲載可能だが、肝心の刑務所時代のものは厳しい規制により「持ち出し禁止」だったので何もない。うっすらと記憶の片隅に残っているだけで、作品として復元することは不可

能だ。あの苦しいリアルな状況下で書いた作品が本に盛り込められないのは悔しいが、でも時間は過去に戻せない。やはり「現在」という時間において再構成するしかないが、むしろこの方が生々しかった当時のことを冷静に振り返られるかもしれないが…。

◇◇◇

社会で自由に暮らす一般の人たちにはとても想像できないだろうが、刑務所での生活は規則遵守がすべてだ。そんな中で、受刑者は自分なりに生きる希望を見出す「術」を見出さなければ、他者とのコミュニケーションが極端に制限された孤独な環境と絶望の日々の中では、なかなか自分の存在を支えきれない。幸運にも私には、その「術」が俳句の世界だった。刑務所暮らしでは何もかも放棄して考えることをやめればいいが、少しでも人間的であろうとすれば多様な感情が自分を苦しめる。私について言えば、アルコールや薬物への無力感、失った家族への深い後悔、ままたらない自分の運命への恨み、時には自分を柵に上げた私怨が顔をのぞかせ、周囲への恨みだけが関係妄想のように肥大化した。こうした否定的な受刑生活を、何とかプラスに転じさせ前向きに生かす材料として、私には俳句の世界があった。俳句に向き合うことで私は救われたのだった。

◇◇◇

私が受刑していた時代には、全国の受刑者が作品を投稿することで編集・発行されていた「ひと」という、受刑者向けの小さな月刊総合文芸新聞があった。随想、短歌、俳句、川柳、読書感想…などで構成され、既に何度も刑務所暮らしを経験し、所内で開かれる俳句指導で直接先生から学ぶなどして俳句の心得があった私は、俳句部門に自分の作品が秀逸として毎回特選や優秀作として掲載された。それが大きな楽しみでもあり、ともすると無味乾燥になりがちな受刑生活を潤す「希望の光」となっていた。この経験があったからこそ、自分がニュースレターを発行する際には、何としても俳句コーナーを設けたいと密かに企画を温めていたのだった。(次号につづく)

石田

初日浴び
今年のパワー
充電す

特選句

人類の歴史も億年の中にもありますが、有史以来太陽を神としていた国は多い。日本も天照大御神や仏教でも大日如来などを崇め、また一日の生活も朝日と共に始まる。年の初めに身も心も清めて初日を浴びて一年の力にする。新年に相応しい元気な句です。

オノ

塩釜の
復興祈る
初日かな

特選句

塩釜は昔の製塩の竈のことで、その名を今も伝えて塩釜市となった。今では日本でも有数の漁業港でもあるが、先の大地震で甚大な被害に遭い復興の途次でもある。作者はこの地に縁があるのかも。自分の事より塩釜の復興を祈る心の和む句です。

今月の秀逸句

鬼

初日の出
鷹も迎えて
鹿島灘

秀逸句

日本は周囲が海の国ですが、その地域を表すのに浦、浜、江、岬、湾、灘があり特徴を表現しています。灘は波の荒い所や海流の強い渡航に難しい所で、鹿島灘も昔は難所の海であった。初日に鷹の舞うのも鹿島灘に相応しい大景の句です。

コバ

遠見にも
富士の眩しき
初御空

秀逸句

原句の初日を変えましたが、これで雪を着た初富士の大景の句になります。冬の晴れた日には三重県などからも見える富士は世界遺産にもなり、益々目出度く人の心を和ませます。

ユタカ

初明り
利根の河岸なる
大鳥居

秀逸句

利根川の鳥居は香取神宮の東と、息栖神社の前、また少し離れて大船津の鰐川にあります。昔から鹿島、香取、息栖の神は東国三社でも有名で、古事記の国譲りの使いの武神でもあります。初明りは新年の夜明けで利根川も雄大で鳥居もまた厳かに思える句です。

佳作

ヒロ

回復の願い込めたる初日かな

カツミ

初日見て心改む依存症

オノ

合格を孫と祈りぬ初日の出

鬼

雲間より恥ずかしがり屋の初日かな

鬼

我鬼子の日の出に向かふ背中かな

どっこい私も生きてます～我が回復記～ 「アディクトのユウです」 No.3

覚醒剤取締法違反で逮捕されたことをきっかけに、僕はついに施設(潮騒 JTC)に入寮しました。しかし、事ここに至っても薬物に対して完全に白旗を上げた訳ではなかったのです。あれほど苦しい体験をしながらも、「底つき」状態には至らず、薬物に対して無力を認め、自分が病気(依存症)だと認めるには時間が必要でした。「まだ大丈夫、仲間のように壊れていない」「俺は自力で更生してみせる」と強がり、右も左も分からなかった僕は薬物の離脱症状を緊張感だけで乗り切り、数カ月を過ごしました。

そうして施設生活に慣れるにつれて、ミーティングやプログラム以外の時間は全て寝て過ごす、怠け者の人間になっていきました。アリバイ的な回復活動の取り組みが続き、よくある“施設ずれ”した人間になってしまうのかなあ、という漠然とした危惧が芽生え始めていました。そんな生活を1年近く続けている頃、ボランティアで作業をしていた仲間が休みの時に代役として作業に行くようになり、ひよんな形で僕の施設での作業プログラムが始まりました。土木作業や農作業の補助、便利屋的な単純作業ばかりでしたが、過去に取得した重機操作の資格が生きて、こんな僕でも世間の役にたっているのかな、という気持ちが生まれていました。

当初は、作業をしながらも「シラフでいることの意味ってなんだろう?」とか、「給料も出ないのになんでこんな事をやっているんだろう?」「施設にうまくこき使われているだけじゃないか…」などの疑念が消えませんでした。でも、仲間たちと一緒に日々新しい体験を無心で続けていると、不思議なことに自然に体も動くし、薬物を使わないでいられる時間が増えていったのです。「そうか、これが回復の意味なんだ!」。これこそ理屈じゃない、体の内側から湧き出るスピリチュアルな目覚めでした。

今、僕は施設に繋がって3年と9カ月となりました。潮騒作業隊(農業隊)の一員として今日まで施設生活を続けてこられているのは、僕を受け入れてくれている仲間のおかげだと思っています。これからも作業プログラムを通じて、焦らずに仲間の助けをもらいながら、日々の回復に努め、少しずつ成長していけたらいいなあと考えています。(終わり)

「潮騒通信」読者からの反応と意見 ～白田美鶴さん(茨城町在住)から貴重な提言 「個人的に回復を目指す人のバイブルにもなってほしい」

潮騒通信の作成と編集は大変だと思いますが、それが届くのを心待ちにしている多くの方がいます。特に受刑の身にある人々には尚更だと思しますので、今後もお励み頂ければと思います。今回の情報(潮騒通信9月号)ではルミさんを中心に女性の単独施設ができたということですが、大変よかったと思います。男女共同だと、様々な面で不都合が起こるからです。また、施設の機能は良い面もあると同時に、悪い面もあると思います。共同住まいや共同作業が苦手なタイプの人も居るからです。共同施設は共同生活に耐えられる人にはよいですが、共同生活や共同活動に付いていけない人や、苦手な人には難しい環境です。そのようなタイプは少数派かもしれませんが、そのような人々の救済も必要です。そこに施設というものの難しさや問題があるように思います。

潮騒通信の内容についてですが、ハイライト面ばかりを集めて作成しがちですが、回復を志す人々のミーティング内容(最も関心があり、知りたいメイン)をもう少し踏み込んで、具体的に伝える工夫も必要な気がします。また、潮騒通信を読んで、回復のプログラムを個人的にやりたい人々にも、そのバイブル(手本)となるような言葉や具体例を掲載していくのも有効ではないかと思います。今の潮騒通信ではイベント(ハイライト)に通信のウエイトが掛かり過ぎる感じがしています。

回復のノウハウやミーティングの内容、入寮者の今の気持ちや取り組む思い、入寮者が今後をどう考え、あるいは施設をどう見ているかを載せる(一部その取り組みも掲載されているが)ことや、センター長の案内でのカウンセリングの様子を伝えたり、そこから見えてくる問題や課題や、地域などへの働き掛けを伝えていくことも必要かと考えます。当事者だけでなく、関係者や一般の人々にも分かるように伝えることも、潮騒通信の大きな役割のように思います。入寮者の毎日は、一般人以上に辛く、厳しいことと思いますが、少しでも回復に近づくことを願い、また寮外にある当事者をも救済できる潮騒通信となることを、私は願っています。これからもご自愛されまして、重責を果たされますようにお祈り申し上げます。

※今月は編集後記に代えて、読者の意見を掲載しました。

- ### 10月の行事予定
- 18日 秋元病院メッセージ
 - 18日 しまナーシングホーム(水戸市)エイサー慰問
 - 21日 光岡 進 生前葬
 - 22日 世田谷区砧地区民生児童委員施設見学
 - 23日 世田谷区烏山地区民生児童委員施設見学
 - 23・30日 しおさい R・D プログラム
 - 26日 神栖市芸術祭参加 和太鼓・エイサー演舞
 - 28日 特養ホーム「大野の郷」(鹿嶋市)エイサー慰問
 - 30日 鹿嶋市平井公民館 エイサー演舞
 - 31日 赤い羽根共同募金会フォーラム参加

- ### 11月の行事予定
- 1日 横浜ダルク 応援エイサー活動
 - 2日 2014年・第24回鹿嶋まつり参加(模擬店)
 - 8日 京都ダルク 11周年フォーラム
 - 9日 秋元病院メッセージ
 - 6・13日 しおさい R・D プログラム
 - 16日 鹿嶋市高松公民館 エイサー演舞
 - 21日 びわこダルクフォーラム
 - 24日 岐阜ダルク 10周年フォーラム
 - 30日 広島ダルク 5周年フォーラム

献金を頂いた方 (10月15日現在)

渡辺 洋子 様、小岩井商事 様、匿名の方

献品を頂いた方 (10月15日現在)

新宿とまり木 様

今月も献金・献品をいただきました。心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。おかげさまで潮騒 JTC は、回復のためのプログラムを実践することができておりますことをご報告いたします。今後ともご支援くださいますよう、なにとぞ宜しくお願い申し上げます。

※その他匿名の皆様からも献品・献金をいただきました。ありがとうございました。

※発送作業簡略化のため、振込取扱票は全員の方に同封 させていただいております。どうぞご理解のほどをお願いします。

10月のバースデー

<p>かっちゃん</p>  <p>なんとなく2年になりそう。いつまで続くのかな?</p>	<p>とり</p>  <p>短いようで長い一年でした。</p>	<p>つとむ</p>  <p>年はとりたくないです。</p>
---	--	---

潮騒通信 どっこい生きてます! 2014年10月号

Contents

- P② 文豪・吉川英治の「我以外皆我師也」を肝に銘じて
- P③ 潮騒和太鼓隊 初舞台 神栖市芸術祭参加イベント
- P⑥ 潮騒ファイザープロジェクト 就労支援実践講座 孤高の書家、北村馬骨さんに“老いの流儀”を学ぶ
- P⑦ 潮騒定食「おらげのかまど」11月11日に開店予定!
- P⑧ 世田谷区民生・児童委員 60人が研修来訪
- P⑨ 持病の腰痛を忘れるエイサー演舞で達成感
- P⑩ 受刑者からの手紙
- P⑫ しおさい俳壇 10月「薄(すすき)」
- P⑭ どっこい私も生きてます! ～我が回復記～「アディクトのユウです」

編集・発行:

特定非営利活動法人
潮騒ジョブトレーニングセンター(本部)
〒314-8799 鹿島郵便局 私書箱 34号
〒314-0006 茨城県鹿嶋市宮津台 210-10
TEL:0299-77-9099 FAX:0299-77-9091
潮騒リカバリーホーム(中施設)
〒314-8799 鹿島郵便局 私書箱 56号
〒311-2213 茨城県鹿嶋市中 2773-16
TEL:0299-69-9099 FAX:0299-69-9098
潮騒スリークオーターハウス鉾田
〒311-2113 茨城県鉾田市上幡木 1113-39

E-メール k.s-darc@orange.plala.or.jp

ホームページ <http://shiosaidarc.com/>

